

第9回焼津市自治基本条例を考える市民会議・記録《別紙》

～市民会議委員それぞれの「学んだことカード」・グループ毎のまとめ～

平成24年6月24日(日)実施

【コミュニティ】

- ・説明は、あまり専門用語は使わずわかりやすく→次回に向けて
- ・条例のPR不足→せっかく回覧版作成してあるのに！
- ・要望事項が多すぎる→子育てグループ
- ・PIの言葉→対話集会

- ・市民が参加できるしくみづくり
- ・市民の声が届けられるしくみづくり

- ・市民会議の者として、この場へ市民の意見を伺いに来た事を前面に出す工夫が必要
- ・市民会議だけでまちづくりを進めるのではなく、同一目線で一緒にやっていきましょう、と基本的立場を理解してもらう
- ・「なんでも言って下さい。」ではなく、具体的に1～2個の質問をなげかけてみる

- ・条例の敷居が高く、理解できない
 - ④平易な言葉で説明や意見を出し、「なぜ」をルールやシステムで条例という形とするかを十分に事前に説明しておく必要がある
- ・意見交換が要望になる傾向になっているので、それを実現させるシステム・ルールづくりであることをわかりやすく広報しておく
- ・今の行政手続きの問題点があることを直す説明

- ・アンケートの中からグループが求めている良いことを発掘したらどうか！

- ・条例…「市がきめること」とのイメージを持たれる…拒否反応
 - 「条例」という言葉を使用しない

【子育て】

- ・説明は自分たちが想像している以上にやさしく、“こんなこと聞けない”と思わせない
- ・グループ員皆で出かけてみることの大切さ（自分が打ち合わせにもでられず、うごけないのにえらそうなこといえず・・・）
- ・要望におわらない、もっていき方

- ・市民団体：これからあらゆる分野にまたがっている
- ・子育て支援：アンケートの項目、子育てを終えた人達の経験を活用
 - 魔法のアンケート
- ・福祉高齢者：本当の当事者である＝まずクレームになってしまう
- ・産業：静岡商工会議所 — いかに関心を引き出すか。幅広い意見を出せる
- ・コミュニティ：東益津地区 ふれあいミーティング 意見が出やすいムード作り
- ・「条例」を使わないで他の言葉で市民主体でやっていく。「P I」の言葉を使わない方がよい
- ・自分の所属している所から始める

- ・P Iの説明は平易な言葉で
- ・今まで黒歴史の存在から、真実条例が市民主導で作られるのか疑問視される
- ・市の職員を介在させない（説明をさせたりしない）→市民主導で
- ・語りかけは「良いきまりを一緒に考えていきましょう」
- ・席を考えよう（話がよくできるように）
- ・「市民条例」をやわらかい言葉で

- ・市民活動：言いたいことをはき出せるような方法を学びたい
- ・産業：10分でも長いと言われた。欲しい意見をひき出せる
 - 答えやすい設問を考える→導入部分が大事。根回しも必要。少人数でやるといいのでは
- ・福祉：7月を予定 市とグループをミックスしたPPT シナリオも作る（20分）
- ・コミュニティ：P Iをやったが、要望ばかり。市政懇談会ではない。
 - それを解決するには？ しくみ作り＝条例
 - 憲法の前文
- ・公民館の母親学級

- ・「条例」のキーワードを工夫して伝える（足かせになる印象を与えてしまうため）
 - 仕組み作り （産業）憲法の前文
- ・P I活動時、市民がやっているという姿勢を全面に押し出す
 - 主体性を共有（P I時の資料配布等も、役所の職員ではなく、自分達でやる）
 - 市の職員さんはいないものと、説明してもらわない
- ・子供会の役員等、地元の頼みやすい人から派及させていく◎
- ・苦情処理にならないように。小さいところからでも、じゃあどういふ事か、自分達でできるか？を考えていく→ファシリテーターがその方向へ導く

【産業】

- ・ P I の言葉をわかりやすい言葉に
- ・ 自己紹介については市民会議委員の方が回答する
- ・ 子育てアンケートの重要性 プレゼンの技術 参加者の時間
- ・ 要望が多くなる 対話形式
- ・ 時間をかけてステップステップ
- ・ 条例→しくみ作り
- ・ チャンス欲望 将来の若い人たちに考えてもらう

- ・ 事務局+自作の資料
- ・ 障害者、ケアマネ、高齢者→要望が出やすい 役員会、研修会
- ・ 子育て→要望ばかり出てしまう。持ち帰ってアンケートに答えてもらう
説明を聞いてもらう時間がない どんな意見が欲しいか、目的
- ・ コミュニティ アンケート 自治基本条例がかたいイメージをもたれてしまう
当事者としての意識づけが重要 全員で出席
- ・ まちづくり 6～7団体
- ・ 当事者意識
- ・ やさしい言葉でわかりやすく
- ・ スライドにこだわらない、スタイルを工夫

- ・ 市役所の自己紹介は？
- ・ 質問、要望については、委員が答える
- ・ 時間の設定は？

- ・ 市民が参加して考える、植えつけ方 ー 場の提供
- ・ ステップバイステップで（時間をかけて）改正を含めて
- ・ しくみ作り（条例あると足かせになる）
- ・ 市民の声が届けられる条例 アンケートだけではだめ。説明が重要
- ・ 言わなきゃ損だから、チャンスだよ（要望でも）
- ・ 学生にも考えてもらったらいいと思う（将来の焼津市を背負う人）
→利害関係ばかりの苦情等になってしまうため

- ・ アンケートの重要性
- ・ 趣旨が伝わらなかった
- ・ 要望ばかりが出てしまう→プレゼンの技術を磨かないと、伝えたいことが伝わらない
- ・ 「どうすればできるか」の意見を吸い上げるテクニック
- ・ 参加者の時間制約が大きく、気もそぞろだった→短時間で

【福祉・高齢者】

- ・市民活動：人数をまとめるのが難しい 福祉大の学生など
 - ・子育て：(高田さんの後任) P I の対象をしぼるのが難しい
 - ・産業：答えを特に期待しない方がいい
-
- ・子育て：アンケートはあまり参考にならなかった。
10分くらいの説明はしたが、理解を得られなかった。
行政に対する意見が多かった。 もっと十分に説明をした方がよかったのでは？
市PTA連絡協議会でも30分説明するも意見が出にくいのでは？
 - ・市民活動：広いので考えがまだまとまらない。いくつか行きたい所があるので、複数で訪問したい。アンケートをやってみたい。
 - ・産業：10分でも長いとの意見。事業に資料を渡したが、右から左へ流れてしまう。
欲しい意見を出しやすい雰囲気。 あらかじめ答えやすい質問を用意する。
高度な意見がでると、話しにくくなる。
大勢集めるより少人数の方が意見が出にくい。
 - ・コミュニティ：要望が多い。高度な意見が出ると、次の意見が出にくい。
-
- ・P I 自体の説明
 - ・子育て：市民が当事者としての意識を持って意見を出してもらおうか。
アンケートを持ち帰って書いてもらったケースも(子育て中で忙しいため)
→わりと回収はできていたよう。
 - ・コミュニティ：自治基本条例ときくと、市役所的。すでに決まっているようにとられたのではないか…
条例の役割、必要性をどう伝えるか。 市民が自分たちがなにをすべきかがもう一步。
 - ・産業：趣旨は伝えていたので、内容は伝えられた。どういう意見を求めているかを伝えると
もっと意見が出るか。 説明は簡単にコンパクトに。
アンケートは後で書いてもらった。 対象をもっと。
 - ・市民活動：グループとして話の骨子をまとめておかないとならない。 なるべくわかりやすい話し方で。
当事者意識を持ってもらう工夫。
 - ・自分たちが思っている以上に掘り下げて、かみくだかないとわかってもらえない。
 - ・会場の雰囲気作り、スタートが大切。 やって見ないとわからない。
 - ・コントロールできる意見を(こちらから、このことについてどうですか? というようななげかけ etc・・・)
 - ・限られた時間でどれだけ出来るか(10分以内の説明が BEST)
 - ・大まかなことを時間をかけて説明する方がよい。

- ・ 多人数より少人数の方が説明しやすく、聞く人が理解できると思う
- ・ 説明は専門用語をさけてする
- ・ 個人等の利害関係を満たす条例ではなく少子高齢化時代に市民が幸せにくらすためのルールづくりをする

- ・ 行政用語はさける（交付税とか説明するよりも、身近な例を出した方がよい）
- ・ 要望的なものになってしまった（PI）
 - 相手側の団体にもよる（専門的団体なら絞って話ができるのでよい）
 - コミュニティ、市民団体は難しい
- ・ 若い世代にもっと参加してもらった方がよい
- ・ 市職員が手伝うのはよいが、紹介はしないこと。答えないこと（要望になってしまう）
- ・ 座る位置について
- ・ パワーポイント、パソコンを使うとなると、準備・相手方との調整（時間）が必要
- ・ 理解されたかは疑問（条例とかいうと、議会とか議員などとやればよいととられる）
 - もっとやわらかい言葉でやらないと理解してもらえない
- ・ 要望を受けた場合→どうしたらみんなですべてが実現するか。（行政に言うだけではなく）みんなでも考えてもらうことを伝える

- ・ P I 活動の最初に、P I 自身の説明をすること
- ・ 今までは、いろんな説明を策定する時に市民の皆さんのご意見を聞くときにパブリックコメントということで、広報やホームページで募集をしていた
 - なかなか集まらずゼロということも
 - だから今回は出向いて皆さんのご意見を聴きに行きました

【市民活動団体】

- ・市の職員はP I で表面に出ない。人数
- ・P I の意義、要望を受ける会でないこと
- ・資料として回覧板の利用

- ・目的を丁寧に伝える
- ・質問を用意し、個別に答えてもらう（意見交換の呼び水として有効）
- ・意見交換（アンケートだけではほとんど伝わらない）
- ・仕組み作りという言葉をもっと有効に使う（条例づくりを）
- ・P I 活動に出た意見を否定せず、まず肯定する
- ・P I 活動後にその場でアンケートをとる（次回の参考）

- ・たくさんの団体を訪問したいので、グループ分担するのでなにを話してくるかのすり合わせが大切。一度一緒に行ってみたらというアドバイス
- ・やさしい言葉で自治基本条例ってどういうもので、どんな目的があるか、どんな効果があるかを重点的に
- ・時間がない 30分もらえとしたり10分説明
- ・当事者意識をもってもらおう
- ・話しやすい雰囲気作り ワールドカフェみたいな
↓
- ・話始めてもらうきっかけ作り 市民団体だったら何が課題、何が支障になっているかといった投げかけ（疑問）をしたらどうか（アドバイス）

- ・アンケート方法だと、小さな要望のみの
- ・小規模人数で時間をかけしっかりと話し合う
- ・組織の頂点と底辺とでは意見が異なる。底辺の意見を多く取り入れたい
- ・条例という位置づけより仕組み作りのための活動であるという事

- ・アンケートの項目をより考えて作る
- ・クレームのみに終わらないで意見を聞く ・幅広い意見を集める→結果は求めない
- ・専門用語はダメ。雰囲気作りに気を配る
- ・P I →○○○
- ・行政に広報不足では？

- ・説明は短い方がよい ・答えやすい質問を作っておく
- ・導入部分を決めておく ・知り合いの人に頼んでおく
- ・人数はあまり多くない方がいい ・資料を作る
- ・アンケート作り 焼津憲法の前文→自治基本条例
- ・要望→自分達は何が出来るの？ ・仕組み作り ・アンケート
- ・意識レベルの高い人が長く話をしてしまう。一般の人、知り合いの人に少し根回ししておく。
話し合いができる